



2005 年上半期アンテナ・伝播研究専門委員会議題

アンテナ・伝播研究専門委員会  
委員長 安藤 真

日時： 2005 年 6 月 23 日（木） 9:30～12:00

場所： 機械振興会館 地下 2 階 2 会議室

議題：

- |                                      |             |
|--------------------------------------|-------------|
| (1) 前回（2004 年 12 月 16 日）議事録の確認       | 【AP05-1-1】  |
| (2) 2005 年度専門委員会・顧問会・アドバイザーリースタッフの構成 | 【AP05-1-2】  |
| (3) 報告事項                             |             |
| (i) アンテナ・伝播研究会 2004 年度運営報告           | 【AP05-1-3】  |
| (ii) 第二種研究会常設委員会報告                   | 【AP05-1-4】  |
| (iii) AP 論文委員会報告                     | 【AP05-1-5】  |
| (iv) AP 国際委員会報告                      | 【AP05-1-6】  |
| (v) AP 出版委員会報告                       | 【AP05-1-7】  |
| (vi) AP 歴史委員会報告                      |             |
| (vii) 通信ソサイエティ運営委員会報告                |             |
| (viii) 通信ソサイエティ独立化タスクフォース・研専アドホック報告  |             |
| (ix) 第三種研「人体電磁ファントム研究会」報告            | 【AP05-1-8】  |
| (x) 第二種研「マイクロ波シミュレータ研究会」報告           | 【AP05-1-9】  |
| (xi) 通ソ活性化基金活用報告                     | 【AP05-1-10】 |
| (xii) ISAP 国際会議委員会報告                 | 【AP05-1-11】 |
| (xiii) ISAP2007 準備状況報告               |             |
| (xiv) 専門委員作業分担状況報告                   | 【AP05-1-12】 |
| (4) 審議事項                             |             |
| (i) 2005 年度第一種研究会予算案                 | 【AP05-1-13】 |
| (ii) アンテナ・伝播研究会 2005 年度実施計画          | 【AP05-1-14】 |
| (iii) 2006 年総合大会シンポジウム/チュートリアル講演等計画  | 【AP05-1-15】 |
| (iv) アンテナ・伝播研究会 長期計画                 | 【AP05-1-16】 |
| (5) その他                              |             |

以下の項目は AP 研 HP での報告とさせていただきます。御覧の上意見がございましたら幹事までお知らせ下さい。

- (1) 2005 年総合大会シンポジウム開催報告(ブロードバンドワイヤレスにおける電波伝搬)
- (2) AP 研専門委員・幹事・副委員長任期規程

日時：2004 年 12 月 16 日（木） 9:30～12:30

場所：機械振興会館 6 階 65 会議室

出席者：唐沢、長、高橋、山本、新井、岩井、宮下、小林、坂口、佐藤、榊原、庄木、田口、田中、常川、平部、廣川、平田、前川、松永、真鍋、山田、宇野、森下、藤元

議題：

- (1) 前回（2004 年 6 月 17 日）議事録の確認 【AP04-2-1】
- (2) 2004 年度専門委員会・顧問会・アドバイザースタッフの構成 【AP04-2-2】
- (3) 報告事項
  - (i) 研究専門委員会運営報告・中間会計報告 【AP04-2-3】

予算計画を修正した。  
収入(再開催+WS-29・30)が増えた。
  - (ii) 第二種研究会常設委員会報告 【AP04-2-4】

5 月任期の委員が 7 人  
WS-29 報告（山田）大幅な黒字見通し  
WS-31 報告（新井）テキスト、シラバス審議終了。募集は最終テキスト次第で判断。5 月下旬開催予定。  
WS-26 は中止。実行委員会は解散。  
WS-32,33 の委員長は未定。
  - (iii) AP 論文委員会報告 【AP04-2-5】

英文誌報告（山田）特集号：英文編集委員を加える。著者写真の重複を避ける。論文誌の大幅赤字。  
和文誌報告（岩井）論文数増加のため特集号を増やす。論文誌賞については今後も審議  
ISAP 特集号（新井）招待論文は受領済み。一般は 68 件投稿、採択率 40%位。  
翻訳特集号（山田）原稿未提出あり。業者による英文校閲あり。学会助成は無理な見込み、AP 研負担。  
和文特集号（森下）原稿 1 月 7 日必着厳守。
  - (iv) AP 歴史委員会報告 【AP04-2-6】

「アンテナの歴史」ではなく「アンテナ・伝搬の歴史」にしては。伝搬関係の装置もある。
  - (v) 通信ソサイエティ運営委員会報告 【AP04-2-7】

通ソの赤字の問題、今後さらに増える見込み。独立採算化。会長通達：研究会の共催取りやめ等。（唐沢）  
赤字の問題は英文特集号：提案母体が経費を負担する可能性。（新井）  
技報の定期購読の減少。ページ数を抑えて、コストを下げる。原則 6 ページまで。4 ページ推奨（長）
  - (vi) 通信ソサイエティ独立化タスクフォース報告 【AP04-2-8】

研究会の参加費、技報の価格を各研究会が設定できる。  
研専運営会議：研究会の新設、統合、廃止、大会運営などの権限がある。  
研専運営会議に対する AP,RCS 研の貢献が期待されている。  
ルール作りは 1 月から 3 月に行われる予定。（長）  
研究会聴講を有料にするか？非会員からは取ってもいいのでは。  
財務アドバイザーが必要では。
  - (vii) 第三種研「人体電磁ファントム研究会」報告 【AP04-2-9】（森下）

(viii) 第二種研「マイクロ波シミュレータ研究会」報告 【AP04-2-10】 (田口)

(ix) ISAP 国際会議委員会報告 【AP04-2-11】

ISAP'06 はシンガポール (唐沢)

(x) ISAP-04 開催報告 【AP04-2-12】 (宇野)

(xi) アンテナ工学ハンドブック委員会報告 【AP04-2-13】

2007 年 7 月発行予定。澤谷委員長で企画委員会を組織する予定。(庄木)

(xii) 専門委員作業分担状況報告 【AP04-2-14】

(4) 審議事項

(i) アンテナ・伝播研究会の今後の体制について 【AP04-2-15】

研専運営会議担当副委員長を新設、国際委員会・出版委員会の新設など執行部案の承認。来年 5 月末から。

各委員会委員長、WS 常設：唐沢、論文：安藤、国際：伊藤、出版：澤谷、歴史：塩川も承認。

連絡会には委員長、幹事が参加する。

(ii) アンテナ・伝播研究会 2005 年度実施計画 【AP04-2-16】

共催は併催に変更。原案通り承認。

(iii) 2005 年ソ大会シンポジウム／チュートリアル講演等計画 【AP04-2-17】

最新のモバイルアンテナ技術 (仮) (シンポジウム)、幹事：庄木 で、承認。

(iv) 後任専門委員について 【AP04-2-18】

委員長：安藤、副委員長：堀、幹事：高橋、宮下、幹事補佐：山本の体制。承認。

交代専門委員：佐々木、佐藤、関根、福迫は承認。

大平、小林、前川、真鍋の後任は今後決める。

副委員長の任期は 2 年。副委員長は委員長に自動的に昇格しない。

委員長、副委員長と同一組織からの専門委員は問題なし。

顧問、AS (堀は削除。牧野を追加) の承認。

## 2005年度アンテナ・伝播研究専門委員会構成

区分	氏名	所属 〒 所在地	TEL E-mail	FAX	任期 ～まで
1	専門委員長 安藤 真	東京工業大学大学院理工学研究科電気電子工学専攻 〒152-8552 東京都目黒区大岡山2-12-1 S3-19	03-5734-2563 mando@antenna.ee.titech.ac.jp	03-5734-2901	07.5
2	副委員長 堀 俊和	福井大学工学部情報・メディア工学科 〒910-8507 福井市文京3-9-1	0776-27-8769 hori@m.ieice.org	0776-27-8751	07.5
3	幹事 高橋 応明	千葉大学フロンティアメディカル工学研究開発センター 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33	043-290-3498 masa@ieee.org	043-290-3327	06.5
4	幹事 宮下 裕章	三菱電機(株)情報技術総合研究所 アンテナ技術部 〒247-8501 鎌倉市大船5-1-1	0467-41-2533 miyas@isl.melco.co.jp	0467-41-2419	06.5
5	幹事補佐 山本 学	北海道大学 大学院情報科学研究科 メディアネットワーク専攻 〒060-0814 札幌市北区北14条西9丁目	011-706-6525 yamamoto@ice.eng.hokudai.ac.jp	011-706-6525	06.5
6	専門委員 新井 宏之	横浜国立大学大学院 電気電子ネットワーク 〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5	045-339-4260 arai@ynu.ac.jp	045-338-1157	06.5
7	専門委員 岩井 誠人	ATR適応コミュニケーション研究所 スマートネットワーク研究室 〒619-0288 「けいはんな学研都市」光台2-2-2	0774-95-1520 iwai@atr.jp	0774-95-1509	06.5
8	専門委員 臼井 英之	京都大学 生存圏研究所 〒611-0011 宇治市五ヶ庄	0774-38-3817 usui@rish.kyoto-u.ac.jp	0774-38-3817	07.5
9	専門委員 大平 孝	(株)ATR波動工学研究所 電波研究室 〒619-0288 京都府相楽郡精華町光台2丁目2番地2	0774-95-2710 ohira@atr.jp	0774-95-1508	05.5
10	専門委員 神谷 幸宏	東京農工大学工学部電気電子工学科 〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16	042-388-7061 ykamiya@cc.tuat.ac.jp	042-388-7061	07.5 新任
11	専門委員 坂口 浩一	日本大学生産工学部電気電子工学科 〒275-8575 千葉県習志野市泉町 1-2-1	047-474-2376 ksakaguc@ee.cit.nihon-u.ac.jp	047-474-2399	06.5
12	専門委員 佐々木正巳	北海道工業大学福祉生体工学科 〒006-8585 札幌市手稲区前田7条15丁目4-1	011-688-2231 msasaki@hit.ac.jp	011-681-3622	07.5
13	専門委員 佐藤 和夫	(株)豊田中央研究所 フロンティア研究部門 〒480-1192 愛知県愛知郡長久手町長湫横道41-1	0561-63-4698 ksato@mosk.tytlabs.co.jp	0561-63-6507	07.5
14	専門委員 榎原 久二男	名古屋工業大学 ながれ領域 〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町	052-735-5416 sakas@m.ieice.org	052-735-5416	08.5
15	専門委員 関根 秀一	(株)東芝研究開発センター モバイル通信ラボラトリー 〒212-8582 川崎市幸区小向東芝町1	044-549-2284 shuichi.sekine@toshiba.co.jp	044-520-1806	07.5 新任
16	専門委員 田中祥次	NHK放送技術研究所無線伝送方式 〒157-8510 東京都世田谷区砧1-10-11	03-5494-3465 tanaka.s-gw@nhk.or.jp	03-5494-3208	08.5
17	専門委員 田中 正人	情報通信研究機構 電磁波計測部門 〒184-8795 小金井市貫井北町4-2-1	042-327-7608 masato@nict.go.jp	042-327-5608	07.5 新任
18	専門委員 長 敬三	NTTドコモ 無線システム開発部 〒239-8536 横須賀市光の丘3-5 NTTドコモ R&Dセンタ	046-840-3800 cho@m.ieice.org	046-840-6555	07.5 新任
19	専門委員 陳 強	東北大学大学院工学研究科電気・通信工学専攻 〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-05	022-795-7097 chenq@ecei.tohoku.ac.jp	022-263-9223	08.5
20	専門委員 常川 光一	NTT未来ねっと研究所ワイヤレスシステムイノベーション研究部 〒239-0847 横須賀市光の丘1-1	046-859-3758 tsunekawa.koichi@lab.ntt.co.jp	046-859-3351	08.5
21	専門委員 平部 正司	NECモバイルワイヤレス事業部第四開発部 〒211-8666 川崎市中原区下沼部1753	044-455-8488 m-hirabe@ce.jp.nec.com	044-455-8490	06.5
22	専門委員 廣川 二郎	東京工業大学大学院理工学研究科電気電子工学専攻 〒152-8552 東京都目黒区大岡山2-12-1 S3-20	03-5734-2567 jiro@antenna.ee.titech.ac.jp	020-4666-9134	06.5
23	専門委員 福迫 武	熊本大学工学部電気システム工学科 〒860-8555 熊本市黒髪2-39-1	096-342-3839 fukusako@eecs.kumamoto-u.ac.jp	096-342-3839	07.5 新任
24	専門委員 藤元 美俊	福井大学 工学部 情報・メディア工学科 〒910-8507 福井市文京3-9-1	0776-27-8913 fujimoto@fuis.fuis.fukui-u.ac.jp	0776-27-8751	08.5
25	専門委員 前山 利幸	(株)KDDI研究所 特命先端研究グループ 〒356-8502 上福岡市大原2-1-15	049-278-7529 maeyama@kddilabs.jp	049-278-7521	07.5 新任
26	専門委員 松永真由美	愛媛大学工学部電気電子工学科 〒790-8577 愛媛県松山市文京町3	089-927-9783 mmayumi@dpc.ehime-u.ac.jp	089-927-9783	08.5
28	専門委員 山田 寛喜	新潟大学工学部情報工学科 〒950-2181 新潟市五十嵐二の町8050	025-262-7477 yamada@ie.niigata-u.ac.jp	025-262-7477	08.5
29	専門委員 和田 修己	京都大学大学院工学研究科 電気工学専攻 〒615-8510 京都市西京区京都大学桂	075-383-2244 wada@kuee.kyoto-u.ac.jp	075-383-2245	06.5

## 2005年度アンテナ・伝播研究専門委員会顧問構成(案)

区分	氏名	所属 〒 所在地	TEL E-mail	FAX	備考
1	顧問 安達 三郎	東北大学 名誉教授 〒983-0824 仙台市宮城野区鶴ヶ谷5-18-8(自宅)	022-251-3708(自宅) sadachi@ma.mni.ne.jp	022-251-3708(自宅)	
2	顧問 池上 文夫	京都大学 名誉教授 〒195-0061 町田市鶴川4-28-7(自宅)	0427-35-2987(自宅) fikegami@coral.ocn.ne.jp	0427-35-2987	
3	顧問 伊藤 精彦	苫小牧工業高等専門学校 〒059-1275 苫小牧市字錦岡443	0144-67-0615 itoh@office.tomakomai-ct.ac.jp	0144-67-0814	
4	顧問 稲垣 直樹	南山大学数理情報学部情報通信学科 〒489-0863 瀬戸市せいれい町27	0561-89-2000 ant@it.nanzan-u.ac.jp	0561-89-2082/2083	
5	顧問 鹿子嶋憲一	茨城大学工学部メディア通信工学科 〒316-8511 日立市中成沢町4-12-1	0294-38-5116 kagosima@dm.t.ibaraki.ac.jp	0294-38-5116	
6	顧問 片木 孝至	金沢工業大学 電気系通信システムコア 〒921-8501 石川県石川郡野々市町扇が丘7-1	076-248-8984 katagi@neptune.kanazawa-it.ac.jp	076-294-6707	
7	顧問 喜連川 隆	三菱電機(株) 〒271-0084 松戸市二十世紀が丘丸山町17(自宅)	0473-92-0088(自宅)	0473-92-0088	
8	顧問 後藤 尚久	拓殖大学工学部情報エレクトロニクス学科 〒193-8585 八王子市館町815-1	0426-65-8589 ngoto@es.takushoku-u.ac.jp	0424-65-1519	
9	顧問 澤谷 邦男	東北大学大学院工学研究科電気・通信工学専攻 〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-05	022-795-7096 sawaya@ecei.tohoku.ac.jp	022-263-9292	
10	顧問 塩川 孝泰	東北学院大学工学部電気工学科 〒985-8537 多賀城市中央1-13-1	022-368-7159 shiokawa@tjcc.tohoku-gakuin.ac.jp	022-368-7159	
11	顧問 進士 昌明	東海大学開発工学部情報通信工学科 〒410-0321 沼津市西野317	0559-68-1111 shnj@wing.ncc.u-tokai.ac.jp	0559-68-1224	
12	顧問 関口 利男	東京工業大学 名誉教授 〒213-0005 川崎市高津区北見方2-21-9(自宅)	044-822-7737(自宅) tsekiguc@viola.ocn.ne.jp	044-822-7737	
13	顧問 高野 忠	宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部 〒229-8510 相模原市由野台3-1-1	042-759-8315 ttakano@radionet.isas.ac.jp	042-759-8320	
14	顧問 手代木 扶	アンリツ(株) コアテクノロジーR&Dセンター 〒243-8555 厚木市恩名1800	046-296-6581 Teshirogi.Tasuku@ff.anritsu.co.jp	046-223-1600	
15	顧問 永井 淳	(株)東芝 〒231-0839 横浜市中区仲尾台33-11(自宅)	045-623-0829(自宅) kynagai@ytv.home.ne.jp		
16	顧問 羽石 操	埼玉大学工学部電気電子システム工学科 〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255	048-858-3478 haneishi@ees.saitama-u.ac.jp	048-854-6929	
17	顧問 平澤 一紘	東京農工大学電気電子工学科 〒184-8588 東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7145 khira@cc.tuat.ac.jp	042-388-7145	
18	顧問 藤本 京平	(財)国際科学振興財団(非常勤) 〒251-0033 藤沢市片瀬山2-16-9(自宅)	0466-28-4027(自宅) HQM11446@nifty.ne.jp	0466-28-4027	
19	顧問 船川 謙司	三菱電機(株) 〒267-0055 千葉市緑区越智町705-140(自宅)	043-295-2289(自宅) VEM01573@nifty.ne.jp	043-295-2289	
20	顧問 古濱 洋治	宇宙航空研究開発機構 〒305-8505 つくば市千現2-1-1	029-868-5075 furuhamaya.yoji@jaxa.jp	029-868-5963	
21	顧問 細矢 良雄	北見工業大学工学部電気電子工学科 〒090-8507 北見市公園町165	0157-26-9281 hosoyays@mail.kitami-it.ac.jp	0157-25-1087	
22	顧問 水澤 丕雄	金沢工業大学電気電子系通信システムコア 〒921-8501 石川県石川郡野々市町扇ヶ丘7-1	076-248-9645 mizusawa@neptune.kanazawa-it.ac.jp	076-294-6711	
23	顧問 虫明 康人	東北大学 名誉教授 〒981-0963 仙台市青葉区あけぼの町2-18(自宅)	022-234-0501(自宅) ymushiak@sm.rim.or.jp	022-234-0501	
24	顧問 諸岡 翼	東芝リサーチ・コンサルティング(株) 〒212-8582 川崎市幸区小向東芝町1番地	044-549-2280 tasuku.morooka@toshiba.co.jp	044-520-1806	
25	顧問 横井 寛	東京電機大学 〒195-0054 町田市三輪町31-11(自宅)	044-988-1656(自宅) h-yokoi@s2.dion.ne.jp	044-988-1656	

顧問会規定 (1996.12専門委員会承認)

- ・ 専門委員長経験者の内、満55歳以上の方
- ・ 平成9年度以前のIEEE AP-S Japan Chapter Chairpersonの経験者で満55歳に達した方

2004 年度第一種研究会決算報告書			
専門委員会の名称	アンテナ・伝播研究専門委員会		
専門委員長名（所属）	唐沢 好男（電気通信大学）		
幹事名（所属）	長 敬三（NTTドコモ） 高橋 応明（千葉大学）		
報告期間	2004 年度（2004.5.30～2005.3.31）		
収入	第1種 研究会	04 年度活動費	150,000
		銀行利息	5
		小計	150,005
	第2種 研究会	前年度繰越金	778,016
		WS-R7 剰余金	401,702
		WS-29/30 剰余金	1,185,937
小計	2,365,655		
合計	2,515,660		
支出	第1種 研究会	研究会受付アルバイト代	73,360
		研究会お茶代	22,890
		プログラム編成委員会補助	22,882
		事務費（通信費・雑費・手数料）	1,185
	小計	120,317	
	第2種 研究会	物件費（モニタ切替機）	17,700
		常設委員会運営費	49,240
		AP 研論文委員会活動費	192,020
		AP 研出版委員会活動費	55,475
		研究会運営補助	240,662
振込手数料	630		
小計	555,727		
合計	676,044		
残高 （次年度繰越金）	第1種研究会	29,688	
	第2種研究会	1,809,928	
	合計	1,839,616	

備考：①二種研 WS の決算報告は個別に通ソへ報告。

②二種研の剰余金管理もしくは不足分対応はアンテナ伝播研究専門委員会が行う。

③WS31 活動準備金として 10 万円を実行委員会へ貸出中。

以上

## 第2種研究会常設委員会報告

## (1) 2005年度ワークショップ常設委員会委員構成

区分	氏名	所属	任期	備考
委員長	唐沢 好男	電気通信大学	07/05	
幹事	長 敬三	(株) NTT ドコモ	07/05	
委員	岩井 誠人	同志社大学	07/05	
委員	岩田 龍一	アンテン株式会社	07/05	
委員	榊原久二男	名古屋工業大学	07/05	
委員	佐藤 和夫	(株) 豊田中研	07/05	
委員	庄木 裕樹	(株) 東芝	07/05	
委員	高橋 応明	千葉大学	06/05	
委員	陳 強	東北大学	07/05	
委員	藤元 美俊	福井大学	07/05	
委員	宮下 祐章	(株) 三菱電機	07/05	
委員	山本 学	北海道大学	06/05	
委員 事務局担当	広川 二郎	東京工業大学	WS 実行委員会（再開催を含む）事務局が東工大に設置されている期間	
オブザーバ	宇野 亨	東京農工大学	06/12	IEEE AP-S Japan Chap. Chair

- 委員構成は上表の通りとする。委員長・幹事・委員の任期は2年。

## (2) WS-29, 30 開催報告（詳細別紙1, 2）

- 会場：東京工業大学 デジタル多目的ホール
- 講師：大鐘 武雄（北海道大学）
- 日時：2004年11月19日（月） 9:30～17:00  
2004年12月17日（金） 9:30～17:00
- テーマ：MIMOシステムの基礎と要素技術
- 開催形態：アンテナ・伝播研究専門委員会主催
- 開催形態：アンテナ・伝播研究専門委員会主催
- 実行体制：唐沢（委員長），山田（総務幹事），長（企画幹事），広川（会場幹事）
- 実行委員：菊間（名工大），藤井（日本テレコム），井上（KDDI），大槻（東京理科大），西森（NTT），尾保手（茨城大），府川（東工大），藤元（福井大），阪口（東工大），原（阪大），太郎丸（ATR），平田（三菱），田邊（東芝）

## (3) 第2種研究会開催計画

## ◆ WS-31

- 会場：東京工業大学 デジタル多目的ホール
- 講師：鈴木康夫（東京農工大）
- 日時：2005年5月26日（木） 9:30～17:00
- テーマ：マイクロストリップアンテナの解析と設計
- 開催形態：アンテナ・伝播研究専門委員会主催
- 実行体制：唐沢好男（委員長），新井宏之（総務幹事），堀俊和（企画幹事），広川二郎（会場幹事）

- 実行委員：羽石（埼玉大），田口（長崎大），伊藤（公）（千葉大），山本（北大），坂口（日大），関（NTT），高橋（三菱），田中（NICT），庄木（東芝），宮下（三菱），広川（東工大）

◆ WS-32

- 日時：2005年11月（予定）
- テーマ：小形アンテナの基礎と実際
- 講師：森下久（防衛大）
- 開催形態：アンテナ・伝播研究専門委員会主催
- 実行体制：堀俊和（委員長），山本学（総務幹事），宇野亨（企画幹事），広川二郎（会場幹事）
- 実行委員：新井（横国大），石井（新潟大），小柳（PMC），佐藤（豊田中研），関根（東芝），田口（長崎大），平田（名工大），廣瀬（産総研），深澤（三菱電機），本間（NTT），前田（立命館大），山口（NTTドコモ）

◆ WS-33

- 会場：東京を予定
- 講師：山田寛喜（新潟大）
- 日時：2006年4～5月（予定）
- テーマ：スーパーレゾリューション
- 開催形態：アンテナ・伝播研究専門委員会主催
- 実行体制：唐沢好男（委員長），長敬三（総務幹事），菊間信良（企画幹事），広川二郎（会場幹事）
- 実行委員：未定

◆ WS-34

- 会場：東京を予定
- 講師：堀俊和（福井大）
- 日時：2006年9～10月（予定）
- テーマ：アレーアンテナの基礎
- 開催形態：アンテナ・伝播研究専門委員会主催
- 実行体制：鈴木康夫（委員長），陳強（総務幹事），宮下裕章（企画幹事），広川二郎（会場幹事）
- 実行委員：未定

(1) 再開催計画

◆ 第8回再開催 WS

- 日時：2005年10月13日（木）
- 場所：東京工業大学百年記念館3F フェライト会議室  
テーマ：アンテナ測定法の基礎と実際
- 講師：手代木扶（アンリツ（株））
- 開催形態：IEEE AP-S Japan Chapter, AP研共催



## 第二種研究会活動報告書

2005年 3月 18日

委員会の名称 [整理番号]

&lt;第二種研究会&gt;アンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ (第29/30回) 実行委員会

委員長名 (所属)

唐沢 好男 (電気通信大学)

幹事名 (所属)

長 敬三 (NTT DoCoMo), 廣川 二郎 (東京工業大学), 山田 寛喜 (新潟大学)

研究会活動 (名称、開催日時、開催場所、発表者、発表形式、参加者数、共催学協会、その他)

名称 : アンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ (第29/30回)  
「MIMO システムの基礎と要素技術」

開催日時 : 第29回: 2004年11月19日 (月) 9:30~17:00

第30回: 2004年12月17日 (金) 9:30~17:00

開催場所 : 東京工業大学 デジタル多目的ホール

発表者 (講師) : 大鐘 武雄 (北海道大学)

発表形式 : 受講者に対する集中講義 (テキスト、PC プロジェクタ)

参加者数 : 289名 (受講者: 265名、講師: 1名、実行委員: 17名、アルバイト: 6名)

共催学協会 : 電子情報通信学会 アンテナ・伝搬研究専門委員会

その他 (特に付記したいことが有ればご記入下さい)

本ワークショップは、かねてより希望の多かった MIMO システムについて初級コースとして「MIMO システムの基礎とその要素技術」と題して開催した。講義は、講師の執筆によるテキストとスライドに基づいて進められ、MIMO システムの定式化とチャネル容量やダイバーシチ SDM 技術、さらには誤り率特性や誤り訂正技術、計算量削減手法など、最近注目を集めている MIMO システムの基礎をはじめとして要素技術と応用例といった広範な内容を詳細で分かりやすく解説したものであり、非常に好評であった。

以上、受講者の評判も良く、本ワークショップの目的は達成されたものと考えられる。

連絡先 および 資料保管先 (氏名、所属、TEL、FAX、E-mail)

山田寛喜、新潟大学工学部情報工学科

TEL: 025-262-7477, FAX: 025-262-7477, E-mail: [yamada@ie.niigata-u.ac.jp](mailto:yamada@ie.niigata-u.ac.jp)

添付資料 1. 発表題目一覧 (第二種研究会名、専門委員長名、開催日時、開催場所、資料番号、発表題目、発表者氏名、所属) をまとめて添付すること。

2. 決算報告書を添付すること。

# 第二種研究会関係決算報告書

2005年3月18日

委員会の名称 [整理番号]

&lt;第二種研究会&gt;アンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ (第29/30回) 実行委員会

委員長名 (所属)

唐沢 好男 (電気通信大学) アンテナ・伝播研究専門委員会委員長

設置期間 2004年4月10日～2005年3月18日

<p>収入： 2,880,006 円</p> <p>(内訳)</p> <p>受講料： 2,780,000 円 アンテナ・伝播研究会からの補助： 100,000 円</p> <p>利子： 6 円</p> <p>合計： 2,880,006 円</p>	<p>備考：</p> <p>受講料 (テキスト代を含む)：</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>会員一般</td> <td style="text-align: right;">13,000 円</td> </tr> <tr> <td>会員学生 (大学院生を含む)</td> <td style="text-align: right;">3,000 円</td> </tr> <tr> <td>非会員一般</td> <td style="text-align: right;">20,000 円</td> </tr> <tr> <td>非会員学生 (大学院生を含む)</td> <td style="text-align: right;">7,000 円</td> </tr> </table> <p>受講者数：</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>会員一般</td> <td style="text-align: right;">143 人</td> </tr> <tr> <td>会員学生 (大学院生を含む)</td> <td style="text-align: right;">84 人</td> </tr> <tr> <td>非会員一般</td> <td style="text-align: right;">31 人</td> </tr> <tr> <td>非会員学生 (大学院生を含む)</td> <td style="text-align: right;">7 人</td> </tr> </table>	会員一般	13,000 円	会員学生 (大学院生を含む)	3,000 円	非会員一般	20,000 円	非会員学生 (大学院生を含む)	7,000 円	会員一般	143 人	会員学生 (大学院生を含む)	84 人	非会員一般	31 人	非会員学生 (大学院生を含む)	7 人
会員一般	13,000 円																
会員学生 (大学院生を含む)	3,000 円																
非会員一般	20,000 円																
非会員学生 (大学院生を含む)	7,000 円																
会員一般	143 人																
会員学生 (大学院生を含む)	84 人																
非会員一般	31 人																
非会員学生 (大学院生を含む)	7 人																

<p>支出： 2,880,006 円</p> <p>(内訳)</p> <p>会場費 (当日ケータリング含む)： 103,074 円</p> <p>資料印刷費： 116,120 円</p> <p>講師手当 (テキスト作成費、講演費、税金)： 266,667 円</p> <p>委員会費 (会議費、講師旅費)： 465,299 円</p> <p>事務局経費 (アルバイト代、通信費、雑費)： 742,909 円</p> <p>アンテナ・伝播研究会へ返済： 1,185,937 円</p> <p>合計： 2,880,006 円</p>	<p>備考：</p>
--	------------

残高 0 円

余剰金の使途

## 第32回WS活動報告

2005.5.25  
総務担当幹事 山本 学  
長 修正(2005.5.28)

### 第1回実行委員会議事録

日時：2005年3月28日(月)13:30~16:30

場所：東京工業大学大岡山キャンパス南3号館2階電気情報系第2会議室

議題：(1)第32回WS実行委員会委員の確認

(2)活動計画および開催スケジュールの決定

(3)シラバス審議

出席者(敬称略)：森下 久，山本 学，宇野 亨，広川 二郎，石井 望，佐藤 和夫，廣瀬 雅信，深沢 徹，山口 良

#### 1. 活動計画および開催スケジュール

- ・講義：11/24(木)9:45~16:45  
東工大百年記念館フェライト会議室(定員80名)で開催
- ・第2回実行委員会(テキスト審議)：9/19(火)13:30~  
北海道大学にて実施
- ・第3回実行委員会(発表形式審議)：11/18(金)10:00~  
東工大にて実施
- ・8月号のIEICE学会誌に募集要項を掲載(原稿締切：6/25)
- ・AP-NETでも募集要項を流す
- ・募集期間：8/1(月)~9/15(木)
- ・募集結果を踏まえて，9/19(火)の実行委員会において再開催の是非を決定
- ・テキスト初稿〆切：8/31(水)  
アクセス制限付きで実行委員がWeb経由でダウンロード出来るようにする．
- ・テキスト最終原稿入稿〆切：10/11(火)
- ・テキスト発送予定日：10/25(火)

#### 2. シラバス審議

森下講師により提案されたシラバス原案に対して，審議の結果，下記のような内容とすることが了承された．

タイトル：「小形アンテナの基礎と実際」

- ・「こがた」は「小形」に統一する．
- ・サブタイトルを入れる．  
(募集案内には載せない．テキスト最終入稿までに講師が決定する．)

#### テキストの目次概要

1. まえがき
2. 小形アンテナ
3. 小形アンテナの実用・応用例
4. 小形アンテナの測定
5. 小形アンテナの設計事例
6. 最近の小形アンテナの動向
7. あとがき

#### 実行委員からのコメント概要

- ・ 給電点の取り扱いとは？ → 限定した形で説明する予定。
- ・ どのようなスタンスで講義を進めていくのかを明確にして欲しい。
- ・ (シラバス原案の) 第 5 章の内容を第 2 章の直後に述べたほうが良い。
- ・ 個々のアンテナの紹介よりは、折り返しループアンテナ等の具体例を取りあげて、小形アンテナの設計の流れを説明する形式のほうが良い。
- ・ シミュレーションそのものよりも、設計事例を述べたほうが良い。  
そうすれば、解析、実験や設計の流れもまとめて説明できるので良いのでは。
- ・ 同じアンテナを異なる複数のシミュレーターで解析した場合の結果を出して欲しい。
- ・ シミュレーターの商品名を公表して講義するのは問題があるかもしれないので、この点に注意して講義をすすめて欲しい。
- ・ 参考文献の扱いは？ → 出典を明示して執筆する。
- ・ (シラバス原案の) 第 5 章 → 従来の分類ではなく、小型化の手法に基づく分類でまとめる。
- ・ EBG による小形化、RFID アンテナなど → 別章 (最近の小形アンテナの動向) を設けて、文献を引用しながら解説する。
- ・ シミュレーション実例では、筐体や人体の影響についても説明する。
- ・ 小形アンテナの整合技術やノウハウについて説明があると良い。
- ・ マイクロストリップアンテナと関連する小型化手法についても触れてはどうか。
- ・ 測定法のところで、平均化利得 (MEG) については触れるのか？ → 触れない。

以上

## A P 研論文委員会報告

## 1. 2005年度委員構成

区分	氏名	任期	備考
委員長	安藤真	07.05	
幹事	岩井誠人	07.05	和文論文誌 B 編集委員
委員 (和文)	長敬三	09.05	和文論文誌 B 編集委員 (新任)
委員 (和文)	宇野亨	07.05	和文論文誌 B 編集委員
委員 (和文)	森下久	07.05	和文論文誌 B 編集委員
委員 (和文)	村田孝雄	06.05	和文論文誌 B 編集委員
委員 (英文)	堀俊和	06.05	英文論文誌 B 編集委員
委員 (英文)	庄木裕樹	06.05	英文論文誌 B 編集委員
委員 (英文)	野本真一	08.05	英文論文誌 B 編集委員 (新任)
委員 (英文)	神谷幸宏	08.05	英文論文誌 B 編集委員 (新任)
委員 (英文)	市坪信一	06.05	英文論文誌 B 編集委員
委員 (英文)	廣川二郎	07.05	英文論文誌 B 編集委員
委員 (英文)	山口良	07.05	英文論文誌 B 編集委員
委員 (和文)	菊間信良	07.05	和文論文誌 B 副編集委員長
委員 (英文)	山田寛喜	07.05	英文論文誌 B 副編集委員長
委員	新井宏之	06.05	通ソ編集会議副編集委員長
委員	井上隆	09.05	通ソ編集会議副編集委員長
委員	高橋応明	06.05	研究会幹事
委員	宮下裕章	07.05	研究会幹事
委員	山本学	06.05	研究会幹事補佐

## 2. 英文論文誌編集委員会報告(山口委員)

## (1) 編集状況

- ・ 投稿件数 1,354 件 (2005 年 1 月実績) (前年度同月 1,060 件 昨年比 127.7%)

※EB は一般投稿の伸びに加え, 特集号企画 3 本分の件数(200 件)による

- ・ 使用ページ 4,028 頁 (2005 年 2 月実績) (前年度同月 3,729 頁 昨年比 108.0%)
- ・ 採録率 一般号(2003 年) 論文 32.9% レター 49.2% 特集号は次項参照

## (2) 特集号予定と採録率

	小特集タイトル	Paper	Letter	[%]
2005/01	Multi-carrier Signal Processing Techniques for Next Generation Mobile Communication	40/83	0/0	48.2
2005/02	Ubiquitous Networks	22/43	0/0	51.2
2005/03	Internet Technology V	19/61	1/1	32.3
2005/04	Recent Progress in Antenna and Propagation Researches	-	-	-
2005/05	Recent Progress in Optoelectronics and Communications(BC 合同)	13/37	0/0	35.1
2005/06	2004 International Symposium on Antennas and Propagation	23/64	1/4	35.3
2005/07	Mobile Multimedia Communications	17/46	2/6	36.5
2005/08	International Symposium on 2004 Electromagnetic Compatibility			
2005/09	Ad Hoc Mobile Networks			

2005/10	Next Generation Photonic Network Technologies			
2005/11	Software Defined Radio Technology and Its Applications			
2005/12	IEICE/IEEE Joint Special Issue on Autonomous Decentralized Systems(BD)			
2006/02	Multimedia QoS Assessment and Management Technologies			
2006/03	The Next generation Ethernet Technologies			
2006/04	Internet Technology VI			

※ 2005/01～2005/07 の採録率 40.0%(=採録 138/投稿 345)

※ 2004 は 43.4%(=126/290) 2003 は 52.0%(=119/229) 2002 は 71.1%

### (3) その他

- ・ 不採録通知への配慮

不採録理由が **Major Revision** であるが、新規性はある場合などには再投稿を促す下記のような文面を編集委員として追記することが望まれる

(追記例)

[Associate editor's comments to the author(s)]

Associate editor decided to reject this paper, as major revision is required prior to publication. I recommend authors to read carefully the reviewer's comments, revise the manuscript and resubmit as a new paper again.

Since the proposed methods are interesting, we strongly recommend that the authors revise the following part and resubmit the manuscript.

When resubmitting your paper, please designate the paper ID and prepare the reply comments to the reviewer(s).

- ・ 罰則規定について

悪質な多重投稿をする確信犯的な例が増えていることから罰則規定に関する提案があった。継続審議中。

- ・ 投稿のしおり改定

(a)現在の文章では誤解されていることがあり記述の改訂を検討中。

<<6ヶ月経過したら他に投稿しても良いなど>>

(現在) The authors may withdraw the manuscript submitted to an IEICE journal if a review is not returned within 6 months from the date of submission.

(改定案) The authors may have the option of the manuscript submitted to an IEICE Transactions to other journals after withdrawing the manuscript if a review could not be returned within 6 months from the date of submission.

(b)参考文献について

(追記案)Items referenced should be limited to material that is easily accessible by the public at the date of publication.

- ・ 論文賞選定について

編集委員は論文賞選定委員でもあるが、選定委員会への出席率が低く少数の投票で決まっている。協力をお願いしたい。次年度はその旨を適宜周知する方向。

- ・ 英文誌の財政状況について

OMDP(Overseas Membership Development Program:特定地域海外会員の会費・別刷りの割引制度)から韓国,台湾を除外する。

### 3. 和文論文誌編集委員会報告(森下委員)

(1) 2004 年和文論文誌 B(一般投稿論文)投稿及び採録件数などのまとめ  
(補足)

- 2004 年 1/1～12/31 までに投稿されたものの総計。現在も査読中のものがあり、5/18 現在の状況。

	論文種別	投稿数	採録数	採録率	不採録数	不採録率	取下数	取下率	査読中数	査読中率
2004 年	論文	211	117	55.50%	79	37.40%	11	5.20%	4	1.90%
	レター,研究速報	53	31	58.50%	21	39.60%	1	1.90%	0	0%
	招待論文	3	2	66.70%	1	33.30%	0	0%	0	0%
	解説論文	3	3	100%	0	0%	0	0%	0	0%
	研究会推薦論文	3	3	100%	0	0%	0	0%	0	0%
	サーベイ論文	0	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

- [参考]2003 年の和文論文誌 B の投稿・採録状況 (一般投稿論文)

	論文種別	投稿数	採録数	採録率	不採録数	不採録率	取下数	取下率	査読中数	査読中率
2003 年	論文	216	124	57.40%	80	37%	12	5.60%	0	0%
	レター,研究速報	63	43	68.30%	19	30.20%	1	1.60%	0	0%
	招待論文	2	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%
	解説論文	3	3	100%	0	0%	0	0%	0	0%
	研究会推薦論文	5	2	40%	3	60%	0	0%	0	0%
	サーベイ論文	0	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

(2) 特集号状況報告

○ [平成 17 年 9 月号] ブロードバンドワイヤレスのためのアンテナ・伝搬技術特集号  
状況: 最終判定済み、幹事: 岩井委員, 森下委員

投稿数: 論文 26 件(採録 18 件, 不採録 8 件)、レター 3 件(採録 2 件, 不採録 1 件)

その他: 招待論文 4 件

○ [平成 17 年 10 月号] インターネットアーキテクチャ技術特集号

状況: 第 2 回査読中、幹事: 相原委員

投稿数: 論文 24 件 (条件付採録 10 件, 不採録 14 件)

その他: 招待論文 1 件

○ [平成 17 年 11 月号] ユビキタス・サービスを支えるネットワーク技術特集号

状況: 第 1 回判定結果済み、幹事: 朝香委員, 山田委員

投稿数: 論文 25 件 (条件付採録 9 件, 不採録 16 件)

○ [平成 18 年 2 月号] 国際標準に向けたテレコム技術とその効用特集号

状況: 論文募集中(平成 17 年 6 月 20 日(月)投稿締切)、幹事: 梅田委員

○ [平成 18 年 4 月号] ネットワークソフトウェア特集号

状況: 論文募集中(平成 17 年 7 月 22 日(金)投稿締切)、幹事: 新津委員

○ [平成 18 年 5 月号] 情報通信システムを支えるエネルギー・エレクトロニクス特集号

状況: 論文募集中(平成 17 年 8 月 25 日(木)投稿締切)、幹事: 渡辺委員

○ [平成 18 年 6 月号] 無線アドホック・マルチホップネットワーク特集号

状況:論文募集中(平成 17 年 10 月 5 日(水)投稿締切)、幹事:朝香委員, 大貫委員

○ [平成 18 年 7 月号] 観測・測定・探査における電磁波応用の最新技術特集号

状況:論文募集中(平成 17 年 10 月 5 日(水)投稿締切)、幹事:角田委員

○ [平成 18 年 8 月号] シームレス通信サービスのためのネットワーク技術特集号

状況:会告原稿 平成 17 年 7 月 20 日 締切、幹事:山田委員

○ [平成 18 年 9 月号] 無線応用システムの進展と多様化を支えるアンテナ・伝搬の設計・

解析・測定技術特集号、状況:会告原稿 平成 17 年 8 月 20 日 締切、幹事:岩井委員

現在、和文論文誌ではノルマ的に特集号を多く企画するようにしている。

### (3) 2004 年度招待・解説論文

掲載号	種別	論文題目	著者名
Vol.J87-B No.1 pp.1 - 9	解説論文	最近の航法と航空交通管制システムの動向	長岡 栄
Vol.J87-B No.3 pp.327 - 335	招待論文	ISP の DNS サーバの DNS トラヒックの解析	加藤 朗 関谷 勇司
Vol.J87-B No.4 pp.471 - 477	招待論文	202 nm 広帯域光増幅器を用いた大容量伝送システム	内藤 崇男
Vol.J87-B No.4 pp.478 - 486	解説論文	光通信ネットワークと量子暗号	広田 修
Vol.J87-B No.9 pp.1130 - 1139	招待論文	広帯域マルチバンドプリントアンテナ	堀 俊和
Vol.J87-B No.9 pp.1140 - 1148	招待論文	小形アンテナ:小形化手法とその評価法	新井 宏之
Vol.J87-B No.9 pp.1149 - 1161	招待論文	部分空間追跡法を用いた DOA 逐次推定とアダプティブビームフォーミング技術	菊間 信良
Vol.J87-B No.9 pp.1162 - 1173	招待論文	MIMO チャネルにおける空間分割多重方式とその基本特性	大鐘 武雄 西村 寿彦 小川 恭孝
Vol.J87-B No.10 pp.1534 - 1541	招待論文	一貫性のある動的で一般的なデータベースとしての現代の DNS	ポール ヴイクシー 加藤 朗
Vol.J87-B No.12 pp.1987 - 1993	解説論文	情報通信用電源の動向と問題点低電圧大電流化への対応	原田 耕介

## 4. 英文論文誌B2004 アンテナ伝播国際シンポジウム特集号について (新井委員)

### (1) 編集委員会構成 (所属, 敬称略)

唐沢, 宇野, 廣川, 藤元, 宮下, 西森, 高橋, 森下, 市坪, 白井, 陳, 西本, 藤崎, 黒木, 岩井, 新井

(注) 投稿件数が 60 件以上となったため, 4 名の委員を追加した.

### (2) 編集スケジュール (抜粋)

2004 年 9 月 30 日:投稿締切 (期日については厳格にした. 今後時間設定も必要)



2004年10月09日:第1回委員会(査読依頼)  
 2004年10月31日:招待論文締め切り(一月以上遅れたものがあった)  
 2004年11月19日:査読報告締切  
 2004年11月26日:第2回委員会(採否判定)  
 2005年1月14日:原稿提出締め切り  
 2005年2月7日:査読報告締切(最終判定)  
 2005年2月12日:第3回委員会(採否,最終決定)・招待論文校閲終了  
 2005年3月5日:事務局原稿引き渡し  
 2005年6月1日:発行

(3) 特集号論文に関するデータ

Regular papers

Country	First submission (68)		After first review (28)		Accepted (24)	
	Paper	Letter	Paper	Letter	Paper	Letter
Australia	4		1		1	
China		1				
Czech Republic	2					
Iran	2					
Japan	36	1	19	1	16	1
Korea	3	1	1			
Netherlands	1					
Portugal	1		1		1	
Puerto Rico	1					
Singapore	3		3		3	
Taiwan	5	1				
Thailand	1					
United Kingdom	3		1		1	
United States	2		1		1	
	64	4	27	1	23	1

採択率は35%で,通常の論文の平均38%よりも低い

Invited papers

1) Richard W. Ziolkowski

“Antennas and Propagation in the Presence of Metamaterials and Other Complex Media: Computational Electromagnetic Advances and Challenges”

2) Tadashi Matsumoto and Reiner S. Thoma

“Turbo Transceivers for MIMO Wireless Communications and their Performance Verification via Multi-Dimensional Channel Sounding”

3) Herman Russchenberg

“Ground-Based Atmospheric Remote Sensing in The Netherlands; European Outlook”

4) Flemming Bjerger Frederiksen, et. Al.

“European Research Toward Future Wireless Communications”

## 5. アンテナ・伝搬研究の進展に関する小特集号（英文論文誌B）報告（山田委員）

Special Section on

Recent Progress in Antenna and Propagation Researches

— Selected Papers Translated from the IEICE Transactions on Communications (Japanese Edition) —  
(アンテナ・伝搬研究の進展に関する小特集号 ～IEICE 和文論文誌 B 翻訳論文小特集号～)

### (1) 掲載論文とページ数

- ・ 唐沢先生：Forward, 1 page
- ・ 澤谷先生：Antenna design by using Method of Moments, 8 pages
- ・ 宇野先生：Antenna design using the finite difference time domain method, 16 pages
- ・ 安藤先生：Radiation Pattern Analysis of Reflector Antennas – Discussions and Hybrid Use of Physical Optics and Aperture Field Integration Method –, 11 pages
- ・ 新井先生：Small antennas: Downsizing techniques and its index factor, 8 pages
- ・ 堀先生：Broadband/Multiband Printed Antennas, 9 pages
- ・ 菊間先生：Iterative DOA Estimation Using Subspace Tracking Methods and Adaptive Beamforming, 11 pages
- ・ 唐沢先生：MIMO Propagation Channel Modeling, 14 pages
- ・ 大鐘先生他：Application of space division multiplexing and those performance in a MIMO channel, 9 pages

上記の掲載順，ページ数として平成17年5月号において，無事，発行された。

### (2) 費用について

- ・ 「業者による英文校正費用」が英文論文誌 B から補助（\424,251）された。
- ・ 掲載料の総額は \1,176,000

基本的に各論文 8 ページ(\89,250)を AP 研からの補助するとして，¥819,000 を AP 研から支出。これは和文誌における招待論文と基本的に同等の扱い。但し，今回は，H16.9 の和文誌掲載時に全額負担頂いた先生がいらっしゃるのので，その先生(新井，大鐘，菊間，堀)分は全額 AP 負担とした。（この件は，AP 研論文委員会，専門委員会のメール審議で承認(H17.4.21)済み)

## 6. 和文論文誌B「ブロードバンドワイヤレスのためのアンテナ・伝搬技術特集号」報告

### (1) 現在の状況

最終判定済み

### (2) 論文数

論文 投稿 26 件、採録 18 件、不採録 8 件  
レター 投稿 3 件、採録 2 件、不採録 1 件  
招待論文 4 件(全て採録)

小西善彦他：「ブロードバンド航空衛星通信用アンテナ」

阪口啓他：「MIMO 伝搬特性の測定装置・測定方法・解析方法・モデル化」  
前田忠彦：「UWB アンテナ技術：ユビキタス超高速通信のためのアンテナ・伝搬・  
評価技術と展望」  
森下久：「小形携帯端末用アンテナ：設計概念から将来展望まで」

(3) 掲載号

平成 17 年 9 月号

(4) 特集号編集委員会

編集委員長 唐沢好男(電通大)

編集幹事 森下久(防衛大)、岩井誠人(KDDI 研)

編集委員 宇野亨(農工大)、菊間信良(名工大)、庄木裕樹(東芝)、高橋応明(千葉大)、  
長敬三(NTTドコモ)、宮下裕章(三菱電機)、山口良(NTTドコモ)、山本学(北大)

(5) 編集作業スケジュール

2004/8/19(木)	第一回編集委員会
2005/1/7(金)	論文投稿締め切り
2005/1/12(水)	第二回編集委員会
2005/2/14(月)	第一回査読報告締め切り
2005/2/16(水)	第三回編集委員会
2005/4/8(金)	回答文締め切り
2005/4/22(金)	第二回査読締め切り
2005/4/26(火)	第四回編集委員会
2005/5/25(水)	最終原稿提出

## 7. 2006 年和文論文誌B AP特集号について

3 月に開催された和文論文誌 B 編集委員会に以下の内容で特集号企画を提案し、承認済み

(1) 特集テーマ名

無線応用システムの進展と多様化を支えるアンテナ・伝搬の設計・解析・測定技術

(2) 提案者

安藤真(アンテナ・伝播研究専門委員会委員長)

(3) 特集の主旨

最近の情報化社会におけるブロードバンド化・マルチメディア化、さらには、今後期待されているユビキタス・ネットワーク社会の実現に向けて、多様な無線通信および無線を用いる各種応用システムの実現が必要とされています。

このように高度かつ複雑な無線システムを実現していくためには、それを支える基礎として、高性能なアンテナを実現するための設計・電磁界解析技術、複雑な伝搬チャネルに対する理論解析やモデリング技術、さらにそれらを検証するための実験・測定技術など、新しい技術が必要とされています。また、リモートセンシングや光通信など、関連する他分野の技術と融合した技術分野も注目を集めており、それを実現するための新しい設計・

解析・測定技術についても研究開発が進められています

本特集号(2006年9月号)では、このような状況のもと、無線応用システムに関するアンテナ・伝搬関連分野の設計、解析、および、測定を中心として、関連する幅広い分野の最新技術に関する論文を募集することとします。

(4) 予定論文数

想定投稿論文数：25件、想定投稿レター数：3件、予定招待論文数：4件

掲載予定論文数：20件（招待論文4件、レター2件を含む）

(5) 希望発行年月日

2006年9月号

(6) 連絡先 岩井誠人

同志社大学工学部 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷 1-3

電話：0774-65-6267、FAX：0774-65-6801、E-mail：hisaiwai@mail.doshisha.ac.jp

(7) 特集号編集委員会構成

委員長 安藤真(東工大)

編集幹事 長敬三(NTTドコモ)、岩井誠人(同志社大)

編集委員 宇野亨(農工大)、高橋応明(千葉大)、山本学(北大)、宮下裕章(三菱電機)、  
 榊原久二男(名工大)、神谷幸宏(農工大)、山口良(NTTドコモ)、関根秀一(東芝)

(8) スケジュール

	事務局	編集委員会	各編集委員	査読委員	著者	招待論文執筆者	備考
2006年8月		第1回編集委員会 ・スケジュール確認 ・招待論文について					
2005年8月25日(木)							会告原稿締め切り
2006年1月5日(木)	論文投稿締切				原稿を事務局に送付		
2006年1月11日(水)～1月13日(金)		第2回編集委員会 ・編集委員割当 等					
2006年1月20日(金)まで	査読委員推薦が投稿論文管理システムにて確認できたものから、随時、査読委員に対して論文と査読報告書を送付する。		投稿論文管理システムを用いて査読委員を推薦(内諾必須)	査読の依頼を受ける			査読委員数: 論文2名、レター1名
2006年2月16日(木)	第1回査読締切			第1回査読締切(厳守)		2006年2月1日原稿提出	
2006年2月20日(月)～23日(木)	第3回編集委員会後、著者へ判定結果を送付	第3回編集委員会(判定会議) ・第1回判定を出す			第1回判定結果を受ける	2006年2月25日校閲締切	判定結果を「判定報告書」を用いて事務局に連絡
2006年4月24日(月)	回答文締切				回答文を事務局に送付	回答文を事務局に送付	
2006年5月8日(月)	第2回査読締切			第2回査読締切(厳守)			
2006年5月9日(火)～5月11日(木)	第4回編集委員会後、著者へ判定結果を送付	第4回編集委員会(判定会議) ・第2回判定を出す			最終判定結果を受ける	最終判定結果を受ける	判定結果を「判定報告書」を用いて事務局に連絡
2006年5月25日(木)まで		特集号の英文名称、掲載順等を決定、事務局に連絡(編集幹事)			最終原稿を事務局に送付	最終原稿を事務局に送付	
2006年9月1日(金)	9月号論文誌発行						

上記は連休明けに最終判定するスケジュールとなっているが、連休前に最終判定する早めのスケジュールに見直す予定。投稿の締切り日(2006年1月5日)は変更予定なし。

以上

17. 6. 23 (木)

## AP 国際委員会報告

### (1) 委員会構成

委員長：伊藤(千葉大)、幹事：森下(防衛大)、幹事補佐：道下(防衛大)、新井(横国大)、宇野(農工大)、神谷(農工大)、常川(NTT)、陳(東北大)

### (2) 第1回国際委員会議事録

#### (a) 国際委員会の主旨の確認

KJJC など研究会の国際化に際し、窓口となる

#### (b) KJJC 第4回開催

開催時期(2006年11月)は要検討

場所は福井、金沢、大分などソウルから直行便が就航している地

#### (c) 国際委員構成の確認

AP 研から宮下氏、ISAP 国際会議委員会からも加わってもらいたい  
アジア地域の活動が主なので AP-S からの委員は少なくても良い

#### (d) 研究会海外開催

候補地はタイ、インドネシア、オーストラリア、シンガポール、台湾など  
ISAP 開催候補地で研究会が先行して開催したらどうか

## AP 研出版委員報告

2005.6.23 幹事 宇野 亨

**活動内容**：アンテナ工学ハンドブックの改定（当面）および研究会出版物に関する検討（今後）

**委員構成**：委員長：澤谷（東北大）

幹事：宇野（農工大），庄木（東芝，学会対応）

委員：新井（横国大），安藤（東工大），伊藤（千葉大），井原（関東学院大）

唐沢（電通大），菊間（名工大），堀（福井大），牧野（三菱），山口（新潟大）

### 新アンテナ工学ハンドブックの取り扱い

- 旧アンテナ工学ハンドブックの改訂版とする
- 電子情報通信学会編としオーム社から出版する
- 小項目ごとの著者に関しては，全面書き換えならば新著者名，書き換えが無ければ旧著者名を記入する．また，書き換えの割合に応じて新，旧，共著などを検討（出版社と相談）．なお，旧著者にはこの旨を連絡する．
- 改訂版を出版することを第一とし，CDなどの電子媒体についてはその後検討．

### 旧アンテナ工学ハンドブックの改定内容

章	タイトル	改定内容
1	序論	書き換え（追加，削除を含む）
2	アンテナの基礎	書き換え（追加，削除を含む）
3	基本アンテナ	線状アンテナ，面状アンテナ，平面アンテナに分割
4	開口面アンテナ	書き換え（追加，削除を含む）
5	アレーアンテナ	書き換え・信号処理アンテナに分割
6	給電回路	書き換え（追加，削除を含む）
7	実用アンテナとそのシステム	書き換え（追加，削除を含む）
8	アンテナの測定	書き換え（追加，削除を含む）
9	電波材料およびアンテナ機構技術	電波材料は内容を追加して電磁波環境の章へ移行 アンテナ機構技術は開口面アンテナあるいは実用アンテナの章へ移行，あるいは削除
10	アンテナの解析手法	一部削除してアンテナの設計・解析手法の章へ統合
11	アンテナ設計のためのコンピュータ応用	書き換え（追加，削除を含む）て，アンテナの設計・解析手法の章へ統合
12	電波伝搬	書き換え（追加，削除を含む）
13	電磁波環境	書き換え（追加，削除を含む）
14	電波関係の国内法令および国際法令	削除して，一部をデータ編へ移行
15	データ編	書き換え（追加，削除を含む）

### 改定アンテナ工学ハンドブック案と担当委員

章	章タイトル	担当委員	章	章タイトル	担当委員
1	序論	澤谷	9	信号処理アンテナ	菊間
2	アンテナの基礎	澤谷	10	実用アンテナとそのシステム	堀
3	給電回路	新井	11	アンテナの測定	安藤
4	線状アンテナ	新井	12	アンテナの設計・解析手法	宇野
5	板状アンテナ	堀	13	電波伝搬	唐沢
6	平面アンテナ	伊藤	14	電磁波環境	井原
7	開口面アンテナ	牧野	15	データ編	山口
8	アレーアンテナ	庄木	他	アンテナの構造設計と機構（調整）	牧野

17. 6. 23 (木)

## 第三種研究会「人体電磁ファントム研究会」報告

### (1) 現状

現在, 第4期目(2004年5月から2006年5月まで)。

委員数: 35名(2005年5月31日現在)

詳細はURL <http://www.ieice.org/cs/hpem/jpn/> 参照

### (2) 平成16年度の会合

#### 第21回

日時: 平成16年7月5日(月) 18:15~20:20

場所: 航空会館 801 会議室(東京都港区新橋 1-18-1)

参加者: 20名

議題: 第4期目の研究会構成および活動計画について、他の研究会との協賛について  
調査研究報告

- ・加藤博和(岡山大学) MRI用ファントムの開発
- ・渡辺聡一(情報通信研究機構) 日本人全身数値ファントムの開発と高機能化

#### 第22回

日時: 平成16年10月25日(月) 18:00~20:00

場所: 航空会館 502 会議室(東京都港区新橋 1-18-1)

参加者: 24名

議題: 今後の研究会活動に関する提案など

調査研究報告

- ・平田晃正(大阪大学) マイクロ波曝露による生体内温度上昇
- ・上坂晃一(日立製作所) 非接触 LSI ピン電流探査手法の開発

#### 第23回

日時: 平成17年2月17日(木)

場所: NICT

AP研との協賛、人体電磁ファントム研究会関連発表6件

#### 第24回

日時: 平成17年5月31日(火) 18:00~20:00

場所: キャンパス・イノベーションセンター 多目的室1(東京都港区芝浦 3-3-6)

参加者: 26名

議題: 今年度の活動のまとめ、来年度(2005年6月~2006年5月)の活動計画など

調査研究報告

- ・原大五郎、小林岳彦(東京電機大) UWB人体電磁ファントム材料の開発
- ・岡野好伸(武蔵工大) 半固体ファントムの開発と応用~SAR評価とアンテナ評価~

### (3) 今年度の活動内容

年4回の割合で研究会を開催し、電磁波と人体との相互作用を明らかにするための人体電磁ファントム構築に向けて、種々の基礎データを収集した。特に他の研究会との横断的な活動の一環で他の研究会との共催、協賛などを積極的に考慮し、まずは AP 研と協賛で研究会を行った。

### (4) 来年度の活動内容

4期目の活動目標として、今までは主に携帯電話の周波数帯を中心とした人体ファントムに関して調査・研究を行ってきたが、今後幅広い利用が見込まれる GHz 以上および kHz~数 10MHz 帯の周波数における問題やより人体組織に近い高精度ファントムまたは多用途ファントムに関する技術についても調査研究を行うことである。引き続き、調査研究を中心に行っていく。

## 第6期マイクロ波シミュレータ研究専門委員会報告

文責：長崎大学 田口光雄

1. 活動報告
  - (1) 研究専門委員会  
2005年2月16日(水)  
2005年5月25日(水)
  2. 活動計画
    - (1) 第6期マイクロ波シミュレータ研究専門委員会の設立  
時限専門委員会として、第6期マイクロ波シミュレータ研究専門委員会の設立がエレクトロニクスソサイエティに認められた(設置期間2005年6月～2007年7月)。  
委員長：磯田陽次(三菱電機(株) 情報技術総合研究所)  
副委員長：藤代博記(東京理科大学 基礎工学部)  
AP研関係の委員  
実行委員会委員(企画調整) 藤森和博(岡山大学 工学部 電気電子工学科)  
ソフトウェア検討委員会(責任者) 田口光雄(長崎大学工学部電気電子工学科)
    - (2) マイクロ波シミュレータプロットフォーム構築(産学官連携)  
具体的対象としてRFIDを選定して、進めていくことが報告されたが、今後の計画の全容は不明。
    - (3) MWE2005 ワークショップ開催計画  
セッション名：「電磁界シミュレータと回路設計」  
予定日時：2005年11月9日(水) 13:30-16:30  
内容：
      1. 各種の電磁界シミュレーション法の特徴 森田長吉(千葉工業大)
      2. FDTD法による伝送線路解析 並木武文(富士通)
      3. 多層プリント回路基板における共振特性解析 和田修己(京都大)
      4. 有限要素法による磁性薄膜インダクタの解析 田邊信二(三菱電機)
    - (4) ソサイエティ大会チュートリアル講演計画  
(シリコンアナログRF研究専門委員会と共同提案)  
日時：2005年9月20日～23日の何れかの半日  
会場：北海道大学(札幌市)  
座長：磯田陽次(三菱電機)  
題目：Si集積回路配線の解析と設計  
講師と題目を6月24日までに確定し、学会へ報告予定
    - (5) 第5回マイクロ波シミュレータ研究会  
日時：2005年9月14日(水)午後  
場所：青山学院大(渋谷キャンパス)
    - (6) 第2回「マイクロ波シミュレータの基礎」講習会  
2005年9月14日(水)午前 マイクロ波シミュレータ研究会の前に開催
3. その他  
なし



【AP05-1-10】

平成16年度ソサイエティ活性化基金活用実施報告書

ー デジタルアーカイブトライアル ー

H17.3.31

通信ソサイエティ

アンテナ・伝播研究専門委員会

1. 概要

平成16年度のアンテナ・伝播研究専門委員会の活動として、今後の研究会のデジタル・アーカイブ化を鑑み、過去のアンテナ・伝播研究会の技術報告の電子化のトライアルの実施のため、活性化基金の活用を申請した。

- ・ A P 研技術報告のデジタルアーカイブトライアル 200,000 円

2. 実施内容

デジタルアーカイブの作成にあたって学会事務局には過去の技術報告の在庫がないことがわかり、会員が保有している技術報告を集めることにより、1982年から2004年度までのアンテナ・伝播研究専門委員会の技術報告についてデジタル化を実施し、学会事務局および専門委員・顧問への配布を行った。(一部未了の号を含む) また、デジタル化したものの著作権について調査した結果、昭和59年4月以降の技術報告については著作権は学会に帰属しており、電子的媒体による利用も含めた包括的な著作権も学会にあるため、今後の配布については問題ないことを確認した。それ以前のものについては、一般に配布する上で課題があることが明らかになった。

来年度については今後の学会としてのデジタルアーカイブ化のデータとして活用すると共に、学会の資料保存に寄与することを目的に、本年度未了の号、および1982年度以前の技術報告に関してのデジタル化を実施する予定である。

## ISAP 国際会議委員会報告

ISAP 国際会議委員会 総務幹事

## 1. ISAP 国際会議委員会 (2004 年度第 3 回 (2004 年 12 月 20 日, 機械振興会館で開催) の報告

## (1) 2007 年 ISAP について

2005 年 3 月 23 日に開催の通ソ運営委員会に ISAP2007 の国際会議趣意書を提案するスケジュールで準備を進めることとなった。暫定的に、会期を 2007 年 8 月 19 日 (日) - 23 日 (木)、開催会場を新潟朱鷺メッセとする。収入計画で寄付の比率を下げる (企業数は減らさないで単価を下げる) 方向で検討することとした。ISAP の略称として、ISAP の後に空白を置かず西暦年を続けるスタイルで行くことになった (例えば ISAP2007)。

## (2) ISAP 海外開催について

海外開催計画として、2006 年 ISAP については、シンガポール側からの検討結果を待ち、通ソに対する後援の事務処理を順次進めることとなった。2008 年 ISAP については、ISAP2005 の際にソウルで開催予定の会合へオーストラリア代表の出席を促す方向で進めることとした。

ISAP 国際会議委員会の国際化の件に関し、当面 ISAP 国際会議委員会の形を維持しながら、海外の関係者にはオブザーバの形で議論に参加してもらおう方向で進めることとなった。ISAP2005 の会期中の海外関係者を含めた会合については、ISAP 国際会議委員長が主催する ISAP 国際会議委員会として開催し、今後の組織のあり方や、今後の ISAP の開催年・場所について議論を行う場とすることとなった。

## (3) ISAP 国際会議委員会委員の改選について

2005 年 2 月に個人委員半数改選の選挙を実施し、次回委員会で 2005 年度の委員会構成を確定する予定で進めることとなった。

## 2. ISAP 国際会議委員会 (2004 年度第 4 回 (2005 年 3 月 15 日, 機械振興会館で開催) の報告

## (1) 個人委員改選結果と 2005 年度 ISAP 国際会議委員会構成の件

個人委員の改選結果の確認を行った後、次期委員長として手代木 扶氏を選出した。

## (2) ISAP 国際会議委員会活動報告・会計報告

2004 年度活動報告・収支決算案、2005 年度事業計画・予算案を審議した。2005 年度予算案の中で、ISAP2007 準備金を 600 万円に変更することなどの修正を行うことで承認された。

## (3) 海外開催関連

ISAP2005 会期中の ISAP 国際会議委員会開催の件について、2005 年 8 月 3 日 12:00-14:00 に開催すること、主要議題の構成は ISAP2005 概要報告、ISAP2006 計画報告、ISAP2007 計画報告とすることとし、早急に議事次第を準備することとなった。

ISAP2006 については、iWAT2005 (シンガポール) における情報等を踏まえて議論し、シンガポール側が可能であれば日本としては 2006 年 7 月末、11 月、12 月初めのいずれも受け入れ可能であること、支援策の一つとして論文査読への協力が可能であることをシンガポール側に伝えようということになった。

## 3. ISAP2006 対応緊急会合 (2005 年 5 月 22 日, 機山館で開催) の報告

ISAP2006 のシンガポール開催に関して、組織形態 + 資金支援の可能性について議論が進行中であるが、早期の取りまとめのため緊急の打合せを行うこととなり、以下の結論を得た。

## (1) ISAP 海外開催における基本方針

・ホスト国固有の受け皿組織 (学会など) を主催者とする。

・IEICE は原則として財務に関与せず、TPC への寄与などの技術面での寄与や会議開催ノウハウの移転などの寄与でその存在感を維持することとする。

・海外開催の ISAP の組織形態における IEICE の関与は、technical cosponsorship とする。

なお、ISAP2005 では財務に関与することなく、学会手続き上は後援 (cooperation) カテゴリで英文表記上は cosponsorship を使用することで通ソの承認を得たが、このような流儀が韓国以外の国では理解されないことを認識して、前項の方針を取ることにする。

## (2)ISAP2006 対応

(第1案)ISAP2006の主催として、シンガポール側がISAP2006組織委員会あるいは実行委員会の組織を立ち上げる。IEICE側は共催組織として前述組織に参画しISAP国際会議委員会会計から準備金をISAP2006財務に移管する。財務面での約束を文書化(契約書化)する。共催に伴い、ISAP国際会議委員会からISAP2006組織委員会(あるいは実行委員会)に委員を派遣する。

(第2案)第1案が頓挫した場合にIEEE AP/MTT Singapore Chapterが主催となる(単にIEEE AP/MTT Singapore Chapter主催では、日本からの寄与がやりにくいことを理由にシンガポール側に配慮を求める)。

上記案についてシンガポール側と非公式な折衝を早急に行う。第1案についてシンガポール側が内諾の場合、通ソに対して共催の国際会議計画趣意書を作成するに必要な予算計画、体制表等の提供を求める。時間が厳しくなっているが、7/3-8に開催のIEEE AP-S&URSIでISAP2006の基本的な広報を行えることを目標に動くこととする。

## (3)ISAP2005でのLuncheon会合対応について若干の議論

そろそろ会合案内を行う必要がある。また、議題、招請者についても詰める必要がある。

## 4.ISAP国際会議委員会(2005年度第1回 2005年6月10日、機械振興会館で開催)の報告

(1)ISAP国際会議委員会新体制を確認した(構成を別添資料に示す)。

### (2)ISAP2006対応

ISAP2006の開催形態として次の3つが考えられる。

(a) IEICE Singapore SectionがSponsor、通信ソサイエティがCosponsor(実質はISAP国際会議委員会が一定の財務負担を負う)。

(b) 現地にISAP2006の主催組織として組織委員会または実行委員会をたちあげてもらい、通信ソサイエティがCosponsorとして共催する(一財務負担は上記と同様)。

(c) IEEE AP/MTT Singapore Chapterが財務面を含めて主催、IEICEは財務に関与しないtechnical cosponsorという立場。

IEICE Singapore Sectionが主催組織となることにはあまり問題はなさそうであり、結論としては(a)案を進めるのが妥当と考えられる。時間がないので、シンガポール側から共催依頼書を至急送付してもらい、それをもとに計画趣意書(ISAP2005と同程度)案を至急用意し、通ソの新しい執行委員会でメール審議をお願いする。7月上旬に米国で開催されるIEEE AP-S&URSIでISAP2007とともにプレアナウンスする。

### (3)ISAP2005期間中におけるLuncheon会合の開催

基本的な考えとして、アジア太平洋地域で開催するISAPを、継続的かつ円滑に運営するために、ISAP国際運営委員会(仮称)を設ける。その構成メンバーや役割等について議論した。時間切れのため、当日のAgenda案も含めてメールで早急に継続審議することとした。

### (4)ISAP2007の進捗状況について

安藤ISAP2007組織委員長より、ISAP2007の進捗状況について報告があった。なお、今後はAP研専門委員会とも緊密に連絡を取り合うことが確認された。

## 5.今後の予定

ISAP2005期間中におけるLuncheon会合に先立ち、7月下旬頃に次回の委員会を開催予定。

以上

2005年度AP研論文委員会構成

区分	氏名	所属
委員長	安藤 真	東京工業大学大学院理工学研究科電気電子工学専攻
幹事	岩井 誠人	同志社大学工学部電子工学科
和文B	長 敬三	株式会社NTTコム 無線システム開発部
和文B	宇野 亨	東京農工大学大学院共生科学技術研究所システム情報科学部門
和文B	森下 久	防衛大学校電気電子工学科
和文B	村田 孝雄	NHK 技術局 送信技術センター(デジタル送信)
英文B	堀 裕和	福井大学工学部情報・メディア工学科
英文B	野本 真一	(株)東芝研究開発センター モバイル通信ラボラトリー
英文B	神谷 幸宏	東京農工大学工学部電気電子工学科
英文B	市坪 信一	株式会社NTTコム 無線リンク開発部
英文B	廣川 二郎	東京工業大学大学院理工学研究科電気電子工学専攻
英文B	山口 良	NTTコム ワイヤレス研究所 EMC研究室
和文副委員長	菊間 信良	名古屋工業大学工学部情報・メディア工学科
英文副委員長	山田 真喜	新潟大学工学部 情報工学科
副編集長	新井 宏之	横浜国立大学大学院物理情報工学専攻
副編集長	井上 隆	(株)KDDI研究所YRPUPサーチセンターワイヤレスプロトタイプ開発グループ
幹事	高橋 志明	千葉大学フロンティアメディア・カル工学研究開発センター
幹事	宮下 裕章	三菱電機(株)情報技術総合研究所 アンテナ技術部
幹事補佐	山本 学	北海道大学 大学院情報科学研究所 メディアネットワーク専攻

2005年度AP研常設委員会構成

区分	氏名	所属
委員長	唐川 好男	電気通信大学 電子工学科
幹事	長 敬三	株式会社NTTコム 無線システム開発部
委員	岩井 誠人	同志社大学工学部電子工学科
委員	岩田 龍一	アンテン株式会社
委員	榎原 久二男	名古屋工業大学 おもひ領域 電気情報工学科
委員	佐藤 和夫	(株)豊田中央研究所 フロンティア12グループ
委員	庄木 裕樹	(株)東芝研究開発センター モバイル通信ラボラトリー
委員	高橋 志明	千葉大学フロンティアメディア・カル工学研究開発センター
委員	陳 強	東北大学大学院工学研究科電気・通信工学専攻
委員	廣川 二郎	東京工業大学大学院理工学研究科電気電子工学専攻
委員	藤元 美俊	福井大学 工学部 情報・メディア工学科
委員	宮下 裕章	三菱電機(株)情報技術総合研究所 アンテナ技術部
委員	山本 学	北海道大学 大学院情報科学研究所 メディアネットワーク専攻
オブザーバ	宇野 亨	東京農工大学大学院共生科学技術研究所システム情報科学部門

2005年度AP研国際委員会構成

区分	氏名	所属
委員長	伊藤 公一	千葉大学フロンティアメディア・カル工学研究開発センター
幹事	森下 久	防衛大学校電気電子工学科
幹事補佐	道下 尚文	防衛大学校 電気情報学群 電気電子工学科
委員	新井 宏之	横浜国立大学大学院物理情報工学専攻
委員	宇野 亨	東京農工大学大学院共生科学技術研究所システム情報科学部門
委員	神谷 幸宏	東京農工大学工学部電気電子工学科
委員	常川 光一	日本電信電話(株) 未来ねっと研究所
委員	陳 強	東北大学大学院工学研究科電気・通信工学専攻
幹事	宮下 裕章	三菱電機(株)情報技術総合研究所 アンテナ技術部

2005年度AP研出版委員会構成

区分	氏名	所属
委員長	澤谷 邦男	東北大学大学院工学研究科電気・通信工学専攻
幹事	宇野 亨	東京農工大学大学院共生科学技術研究所システム情報科学部門
委員	安藤 真	東京工業大学大学院理工学研究科電気電子工学専攻
委員	新井 宏之	横浜国立大学大学院物理情報工学専攻
委員	伊藤 公一	千葉大学フロンティアメディア・カル工学研究開発センター
委員	井原 俊夫	関東学院大学工学部電気電子情報工学科
委員	唐川 好男	電気通信大学 電子工学科
委員	菊間 信良	名古屋工業大学工学部情報・メディア工学科
委員	庄木 裕樹	(株)東芝研究開発センター モバイル通信ラボラトリー
委員	堀 裕和	福井大学工学部情報・メディア工学科
委員	牧野 滋	三菱電機(株)情報技術総合研究所 アンテナ技術部
委員	山口 芳雄	新潟大学 工学部情報工学科

2005年度AP研歴史委員会構成

区分	氏名	所属
委員長	塩川 孝泰	東北学院大学工学部電気工学科
幹事	宇野 亨	東京農工大学大学院共生科学技術研究所システム情報科学部門
幹事	牧野 滋	三菱電機(株)情報技術総合研究所 アンテナ技術部
幹事補佐	有馬 卓司	東京農工大学工学部 電気電子工学科
委員	菊間 信良	名古屋工業大学工学部情報・メディア工学科
委員	倉本 晶夫	日本電気(株) モバイルワイヤレス事業部 第六開発部
委員	庄木 裕樹	(株)東芝研究開発センター モバイル通信ラボラトリー
委員	正源和義	NHK放送技術研究所衛星デジタルシステム
委員	鈴木 康夫	東京農工大学工学部電気電子工学科
委員	高橋 志明	千葉大学フロンティアメディア・カル工学研究開発センター
委員	長 敬三	株式会社NTTコム 無線システム開発部
委員	野本 真一	(株)KDDI研究所 ネットワーク設計グループ
委員	堀 俊和	福井大学工学部情報・メディア工学科
委員	真鍋 武嗣	大阪府立大学 大学院工学研究科
委員	森下 久	防衛大学校電気電子工学科

ISAP 国際会議委員会名簿

委員区分(役職)	氏名	所属
個人委員(委員長)	手代木 扶	アンリツ(株)
個人委員(副委員長)	澤谷邦男	東北大学
個人委員(幹事)	伊藤公一	千葉大学
個人委員(会計幹事)	庄木裕樹	(株)東芝
個人委員	新井宏之	横浜国立大学
個人委員	安藤 真	東京工業大学
個人委員	井原俊夫	関東学院大学
個人委員	宇野 亨	東京農工大学
個人委員	唐沢好男	電気通信大学
個人委員	長 敬三	(株)NTTコム
委員長推薦委員	中野久松	法政大学
個人委員	古澤洋治	(財)アルム 先端技術研究支援センター
個人委員	牧野 滋	三菱電機(株)
個人委員	真鍋武嗣	大阪府立大学
個人委員	山崎恒樹	日本大学

\* 個人情報が含まれておりますので、取扱いに注意し、目的以外に使用しないで下さい。

2005年度第一種研究会予算案		備考	
委員会の名称	アンテナ・伝播研究専門委員会		
委員長名（所属）	安藤 真 （東京工業大学）		
幹事名（所属）	高橋応明 （千葉大学） 宮下裕章 （三菱電機）		
期間	2005年度（2005. 4. 1～2006. 3. 31）		
収入	前年度繰越金	29,688	5月末 ¥-8,294
	第一種研究会交付金	150,000	
	小計（第一種研究会）	179,688	
	第二種研究会繰越金	1,809,928	5月末 ¥85,0508
	WS31剰余金	170,228	
	小計（第二種研究会）	1,980,156	
	APデジタルアーカイブトライアル交付金	200,000	
小計（APデジタルアーカイブトライアル）	200,000		
合計	<b>2,359,844</b>		
支出	研究会受付事務費（アルバイト代等）	75,000	5,000円 15人日
	研究会開催補助費（菓子・お茶等）	45,000	3,000円 15日
	シンポジウム招待講演登録料	27,000	9,000円 3件
	会合費（プログラム編成委員会）	60,000	30,000円 2回
	光・電波WS活動補助	30,000	15,000円 2回
	雑費	10,000	
	小計（第一種研究会）	247,000	
	翻訳論文補助	819,000	支出済
	WS活動補助	100,000	WS32
	研究会顧問特別講演補助	60,000	30,000円 2人
	常設委員会会議費	100,000	50,000円 2回
	論文委員会活動補助	100,000	
	出版委員会活動補助	100,000	
	歴史委員会活動補助	100,000	
	国際委員会活動補助	50,000	
特集号招待論文補助	400,000		
小計（第二種研究会）	1,829,000		
デジタルアーカイブ作成費	150,000		
会議費	50,000	25,000円 2回	
小計（APデジタルアーカイブトライアル）	200,000		
合計	<b>2,276,000</b>		
残高	第一種研究会	-67,312	
	第二種研究会	151,156	
	APデジタルアーカイブトライアル	0	
	合計	<b>83,844</b>	

## アンテナ・伝播研究会 2005年度実施計画

開催日	予定件数 (実績)	開催場所	テーマ	共催	併催・協賛	会場世話人 (敬称略)	備考	大会・国際会議等
4/21(木)	10 (9)	立命館大	一般	IEEE AP-S		前田 (立命館大)		
5/19(木) 5/20(金)	20 (22)	鳥取環境大	一般	IEEE AP-S, URSI-F	SAT研(併催)	秦野 (鳥取環境大)		*5/30-6/1 VTC Spring ・ URSI-B ?
6/23(木)	6 (7)	機械振興会館	一般	IEEE AP-S		高橋 (千葉大)	・専門委員会、 顧問会	*6/15-17 ANTEM ・MTTS?
7/20(水)~ 7/22(金)	35 (32)	層雲峡	一般	IEEE AP-S, URSI-F	SAT研(併催)	大島(旭川高 専) 森下(防衛大)		*7/3-8 APS
8月								*8/3-5 ISAP04
休会 (ISAP05開催のため)								
9/8(木)	10	豊田中研	一般	IEEE AP-S	SPS研(併催)	佐藤 (豊田中研)		*9/20-23 ソサイエティ大会. *9/18-22 WPMC. ・IGRASS ? ・VTC Fall ?
10/20(木) ~10/21 (金)	36	秋田県立大学	アダプティブアンテナ、 MIMOおよび無線通信 号処理技術、一般	RCS研 IEEE AP-S URSI-F		阿部 (秋田県立大)		*European Microwave Conf. ? ・PIERS ?
11/17(木)	6	日本大学	一般	IEEE AP-S		坂口 (日本大)		
12/15(木)	6	東工大	一般	IEEE AP-S		広川 (東工大)	・専門委員会、 顧問会	*12/4-7 APMC
1/26(木) 1/27(金)	20	福岡工業大	アンテナ設計解析 技術、一般	IEEE AP-S, URSI-F	マイクロ波シミュ レータ研(協賛)	松永 (福岡工大)		
2/16(木)	10	東芝	一般	IEEE AP-S		関根 (東芝)		
3/1(水)~ 3(金)	35	YRP	移動通信WS	RCS研、MW研、 MoMuC研、SST 研、IEEE AP-S		RCS研幹事		*3/24-27 総合大会

年間予定件数/176件(1092頁)

**2006 年総合大会シンポジウム/チュートリアル講演企画、などについて**  
**—大会企画案および論文特集号テーマに関するアンケート結果—**

AP 研論文委員会幹事

各委員から頂いた大会企画テーマアンケート結果に基づき、2006 年総合大会の企画について以下のように提案致します。

**テーマ:EBG/PBG、メタマテリアルの特性とアンテナへの応用**

企画の種類:チュートリアル

コーディネータ:三菱電機 宮下

以下、皆様より頂いたアンケートの結果を示します。

**今回のアンケート結果**

【シンポジウム/チュートリアル/パネルディスカッション】

- ・ 到来方向推定技術の移動無線通信への応用
- ・ 広帯域/マルチバンドアンテナ(お二人より提案あり)
- ・ 大規模な問題に対する数値解析技術, 電磁界の高速計算アルゴリズム
- ・ ユビキタス実現に向けたアンテナ技術 (RFID、小形アンテナ等)
- ・ RFID をメインとした小形アンテナ関連技術 (実装技術を含む)
- ・ RFID タグのアンテナ技術(お二人より提案あり)
  - Suica,Icocaに始まり、物流、生産ラインにも使われ始め、コンビニ決済のFelicaや、名古屋の万博の入場券にはミューチップが使われています。科学研究費や総務省の研究助成で、RFID タグアンテナ関連がいくつか採択されていたようなので、これから発表も出てくるように思いますがいかがでしょうか。
  - 本件を「RFID タグのアンテナ・伝搬技術」とするのは如何でしょうか。
- ・ アンテナの統合化、集合化技術
- ・ [シンポジウム]そろそろメタマテリアル関係も国内研究者が増えており、シンポジウムなど可能と思います。
- ・ [シンポジウム]広帯域アンテナの設計理論
- ・ [シンポジウム]地上デジタル放送受信におけるアンテナ・伝搬の諸技術
- ・ [シンポジウム]OFDM 用ダイバーシチ・干渉抑圧技術
- ・ [シンポジウム]マルチバンド化に向けた端末用チューナブルアンテナ技術
- ・ [シンポジウム]人体近傍動作向けアンテナの諸技術
- ・ [シンポジウム]RFID タグのアンテナ技術
- ・ [シンポジウム]EBG/PBG、メタマテリアルのアンテナ応用における課題
  - EBG 等の設計方法、特性の評価方法など
- ・ [シンポジウム]MIMO 用アンテナ素子の実装課題、電波伝搬シミュレーション技術
- ・ [シンポジウム]小形アンテナの測定技術
- ・ [パネル討論]最新アレーアンテナ技術(衛星・移動・レーダ・FWA 等)
  - 技術的観点、実用的観点から比較するようなパネル討論
- ・ [パネル討論]MIMO 対アダプティブアレーアンテナ(ビームフォーミング)に関するパネル討論
- ・ [パネル討論]屋外で MIMO は使えるか?
  - パネラー:小川先生(or 大鐘先生)(北大)、坂口先生 or 高田先生(東工大)、唐沢先生(電通大)
- ・ [パネル討論]次世代放送衛星用アンテナシステム
  - 次世代の衛星放送に関する技術とサービスに関する討論
  - パネラー:アンテナ技術者(東芝、三菱、NHK)放送事業者(NHK、民法)
- ・ [チュートリアル]人体近傍設置アンテナの解析・設計・測定技術
  - 講演者:伊藤先生(千葉大)、山口様(DoCoMo)、小川様(松下)、深沢様(三菱)など

- ・ [チュートリアル]EBG/PBG、メタマテリアルの特性とアンテナへの応用
  - EBG 等のどういった特性をどのようにアンテナの高性能化に活用するのか
  - 講演者 堤先生(福井工大)、真田先生、久保先生(山口大)、栗井先生(龍谷大)、T.Itoh 先生(UCLA)
- ・ [チュートリアル]ミリ波帯 CMOS 無線機に向けたアンテナ伝播技術
  - MEMS、EBG などの新技術の紹介、LSI との一体化方法、測定方法における課題、ミキサ—一体型アクティブアンテナなど特有の技術における技術課題
  - 講演者:伊藤龍男先生(UCLA)、宮本陽一郎先生(ハワイ大学)、佐藤稔先生、野木茂次先生(岡山大)、川崎繁男先生(東海大)、佐野栄一先生(北大)、益一哉先生(東工大)など

## 【論文誌の特集テーマ】

- ・ 通信に限らずレーダ・センサ・アンテナ解析などの技術が広く盛り込めるようなものがよいと思います。
- ・ 特集のテーマとは直接関係ないかもしれませんが、海外の研究教育状況について招待論文があってもよいと思います。
- ・ (2005 年秋ソ大の)シンポジウムと同じ移動体・端末用スマートアンテナ技術
- ・ メタマテリアルもよいかと思いましたが、MW で今年末に既に企画されていますね。
- ・ 最新のアンテナ・伝搬基盤技術
- ・ ユビキタス実現に向けた最新アンテナ・伝搬技術
- ・ 小型・内蔵アンテナ
- ・ 広帯域アンテナに要求される特性(主に UWB に向けて)
- ・ できるだけ広く分野をカバーし、投稿件数を稼げるように、トピックをあまり絞らず、これまでのように、
  - アンテナ設計技術
  - 移動体アンテナ技術
  - 高周波アンテナ技術
 などとするのが良いと思います。
- ・ RFID タグのアンテナ・伝搬技術
- ・ 無線 LAN 用アンテナ
- ・ チューナブルアンテナ技術
- ・ OFDM 用ダイバーシチ・干渉抑圧技術
- ・ 広帯域通信のためのスマートアンテナ技術
- ・ EBG/PBG、メタマテリアルのアンテナへの応用技術

## 【その他の意見】

- ・ 全国大会で事前申請したものは、発表時間を増やしたいとの意見がありました。(専門委員会で扱う問題ではないかもしれませんが。)

[以下、参考]

**前回 アンケート結果 (昨年 11 月)**

1. EBG/PBG のアンテナへの応用、現状AP研関係者は少ないので、MW との連携含む。
2. アンテナの広帯域化技術(UWB に限らない)
3. アンテナ伝播ハイブリッド解析技術(FDTD, モーメント法, 有限要素法, レイトレーシング, GA, ウェーブレットなどの複雑な構造への適用法や高速化法、少メモリー化などの複合解析技術)
4. 端末用アダプティブアレーアンテナ
5. B3G(Beyond 3G)のためのダイバーシチ・干渉抑圧融合技術
6. MIMO 実装への技術課題
7. GPS を用いた高精度測位技術とアンテナ伝播
8. 次世代衛星搭載アンテナ技術 (準天頂衛星、小型衛星などに適するアンテナ技術)
9. OFDM 向けアダプティブアレーアンテナ、阪大 原先生、福井大 藤本先生、名工大 菊間先生など
10. MIMO 実装技術(主に実験的な観点から)、東工大 阪口先生や NTT ドコモの方
11. 到来方向推定技術の移動無線通信への応用
12. EBG/PBG、メタマテリアルのアンテナへの応用
13. (一般に解析が困難とされている)大規模な問題や複雑な問題に対する解析技術
14. 次世代放送衛星システム(アンテナ、給電回路等)
15. 端末用スマートアンテナ



16. RFID タグのアンテナ技術  
Suica,Icoca に始まり, 物流, 生産ラインにも使われ始め, コンビニ決済の Felica や, 名古屋の万博の入場券にはムーチップが使われています. 科学研究費や総務省の研究助成で, RFID タグアンテナ関連がいくつか採択されていたようなので, これから発表も出てくるように思いますがいかがでしょうか.
17. アンテナの統合化, 集合化技術  
携帯端末や自動車などには, 狭い領域に複数のサービスをカバーするアンテナが必要ですので, 各社さん開発されているように思います. 本題のような切り口でセッションを開くという方法もあるように思います.
18. RF-ID アンテナ
19. 回路(素子)とアンテナの相互結合
20. 超高周波の為のアンテナ・電波伝播諸技術

#### 前々回 アンケート結果 (昨年 5 月)

- S1 EBG/PBG のアンテナへの応用
- S2 アナログ RF ダイバシティ技術
- S3 UWB に関わるアンテナ・伝搬の諸問題
- S4 「準天頂衛星システム実現のためのアンテナ・伝播諸技術」または 次世代衛星搭載アンテナ技術
- S5 デジタルTV受信用アンテナ・伝搬諸技術
- S6 アダプティブ・アンテナの実装技術
- S7 広帯域・マルチバンドアンテナ
- S8 小型アンテナとその実装技術
- S9 UWB アンテナ
- S10 メタ媒質のデバイス応用
- T1 メタマテリアル関係を MW などと手を組んでチュートリアルを企画
- T2 メタマテリアル==== EBG と LHM

#### ●最近のシンポジウム等

- 2005(秋)最新の移動体・端末用スマートアンテナ技術
- 2005(春)ブロードバンドワイヤレスにおける電波伝搬
- 2004(秋)最新アンテナ解析技術(チュートリアル)
- 2004(春)MIMO システムにおけるアンテナ・伝搬の諸技術
- 2003(秋)最新のアンテナ・伝搬技術(仮題)
- 2003(春)通信・レーダのためのインターフェロメトリ・ポーラリメトリ技術
- 2002(秋)ブロードバンド無線通信におけるアンテナ伝搬の諸技術
- 2002(春)アクティブアンテナおよび関連技術
- 2001(秋)高分解能到来方向推定とその応用
- 2001(春)ITS におけるアンテナ・伝搬の諸技術
- 2000(秋)アンテナ技術のEMC問題への適用  
人体電磁ファントムの現状と問題点(チュートリアル)
- 2000(春)電波伝搬におけるモデル化とシミュレーション技術
- 1999(秋)アレーアンテナに関する最近の諸技術
- 1999(春)人体近傍に置かれたアンテナの解析・設計・測定技術
- 1998(秋)アダプティブアンテナの応用とその関連技術  
非通信分野におけるアンテナ・伝搬とその問題点(チュートリアル)
- 1998(春)電波による高機能センシング技術  
アンテナ設計から見た電磁界シミュレータの使い方(チュートリアル)

以上

## アンテナ・伝播研究会 長期開催計画 (案)

	2005年度 (H17)	2006年度 (H18)	2007年度 (H19)	2008年度 (H19)	2009年度 (H20)
4月	立命館大(関西)	京大(関西)	阪大(関西)	大阪電通大(関西)	近畿大学(関西)
5月	島根県立大(中国・四国)	東北大(東北)	山形大(東北)	弘前大(東北)	福島大(東北)
6月	<東工大>	<機械振興会館>	<東工大>	<機械振興会館>	<東工大>
7月	旭川(北海道)	旭川高専(北海道)	北大(北海道)	北見工大(北海道)	北大(北海道)
8月	★MW研, SAT研, OPE研, EMT研 休会	★MW研, SAT研, OPE研, EMT研 休会	★MW研, SAT研, OPE研, EMT研 休会	★MW研, SAT研, OPE研, EMT研 休会	★MW研, SAT研, OPE研, EMT研 休会
9月	豊田中研(東海)	CRL(東京)	NTTドコモ(東京)	KDDI研究所(東京)	松下(東京)
10月	北大	(未定)	(未定)	(未定)	(未定)
11月	秋田県立大(東北)	福井大(北陸)	岐阜大(東海)	信州大(信越)	金沢大(北陸)
12月	★RCS研	★RCS研	★RCS研	★RCS研	★RCS研
1月	日大(東京)	埼玉大(東京)	農工大(東京)	横浜国大(東京)	防衛大(東京)
2月	東工大(東京)	<機械振興会館>	<機械振興会館>	<機械振興会館>	<機械振興会館>
3月	福岡工大(九州)	広島工大(中国・四国)	九大(九州)	高知科大(四国)	熊本大(九州)
4月	東芝(東京)	NEC(東京)	NHK技研(東京)	三菱電機(東京)	東芝(東京)
5月	YRP 移動通信WS	YRP 移動通信WS	YRP 移動通信WS	YRP 移動通信WS	YRP 移動通信WS
6月	★RCS研, SST研, MoMuC研他	★RCS研, SST研, MoMuC研他	★RCS研, SST研, MoMuC研他	★RCS研, SST研, MoMuC研他	★RCS研, SST研, MoMuC研他
7月	国士館大(東京)	(未定)	(未定)	(未定)	(未定)

・原則として、IEEE AP-S Tokyo Chapterと常に共催。各地開催月はURSI-Fと共催

・★MW研：マイクロ波研，★RCS研：無線通信システム研，★SAT研：衛星通信研，★SANE研：宇宙・航空エレクトロニクス研

・★映像情報：映像情報アイア学会無線・光伝送研究会，★SST研：スペクトル拡散研，★EMT研：電磁界理論研，★OPE研：光エレクトロニクス研

・<>：6月、12月は研究専門委員会、顧問会も開催

・2006年度(H18)以降の計画は暫定であり、2005年度下半期の専門委員会別途正式決定される。

・基本ロケーション：4月(関西)、5月(東北)、6月(東京)、7月(北海道)、8月(休会)、9月(東京)、10月(北陸・東海・信越)、11月(東京)、12月(東京)

1月(中国・四国・九州)、2月(東京)、3月(YRP)